

稲作等を通じたアフリカ食料安全保障復興支援・ 技術実証普及事業 [継続]

【29(33)百万円】

対策のポイント

現地に適した水稻栽培技術の実証・普及により、アフリカの米の中長期的生産性向上を支援します。

<背景/課題>

- ・西アフリカ諸国では、内戦等により生産基盤が破壊された一方、人口増加や生活様式の変化に伴い米の需要が急増し、多くの国で恒常的に食料が不足しています。
- ・我が国は、アフリカ開発会議(TICAD)において、2008年からの10年間でサブサハラアフリカの米生産を倍増させる「CARDイニシアティブ」を提唱しています。
- ・特に低湿地水田は、我が国の協力等を通じ現地の研究機関等に技術的蓄積があり、その技術の普及を促すことで食料の生産性が向上します。

政策目標

- 世界の食料安全保障の確立に向けた貢献
- 西アフリカで、4 t/ha以上の単収を複数年得られる技術を4カ国で実証・普及

<主な内容>

稲作技術の実証及び稲作技術体系の普及

29(33)百万円

(1) 稲作技術の実証試験及び調査分析

リベリア及びシエラレオネに稲作技術実証圃場を新たに複数設置し実証試験や調査分析を行い、高い収量が得られる現地に適した営農体系を確立します。

(2) 稲作技術体系の普及

トーゴ及びベナンの稲作技術実証圃場において、高い収量が見込める稲作技術の実証試験を継続するとともに、研修によりその技術体系を普及させ、フードバリューチェーンの構築を推進します。

(拠出先:アフリカ稲センター (Africa Rice)
事業実施期間:平成26年度~平成30年度)

お問い合わせ先:

大臣官房海外投資・協力グループ
国際機構グループ

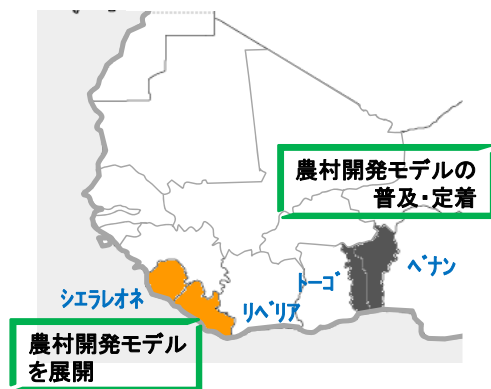
(03-3502-5913)

(03-3502-8497)

稲作等を通じたアフリカ食料安全保障復興支援・技術実証普及事業

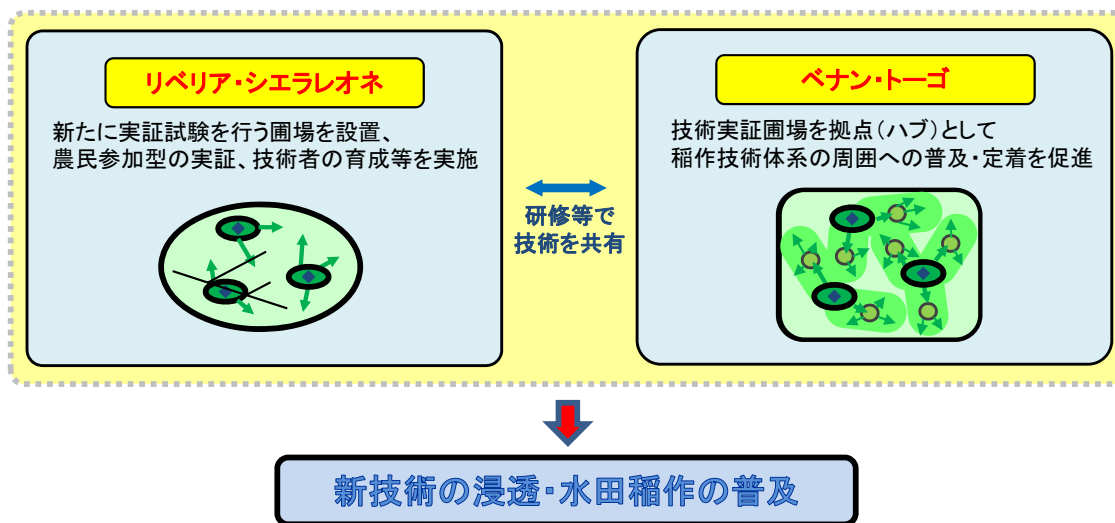
事業概要・目的

- 西アフリカの4カ国で現地に適した水稻栽培技術の実証・普及により、アフリカの米の中長期的生産性向上を支援します。
- 本事業を通じ、世界の食料安全保障の確立に向け貢献するとともに、4 t/ha以上の単収を複数年得られる技術を4ヶ国で実証・普及します。



事業イメージ・具体例

- リベリア及びシエラレオネに稲作技術実証圃場を新たに複数設置し、実証試験や調査分析を通じて営農体系を確立します。
- トーゴ及びベナンの稲作技術実証圃場で実証試験を継続し、農民向けの研修により技術体系を普及します。



資金の流れ



期待される効果

- 我が国が、アフリカ開発会議 (TICAD) において提唱している「CARDイニシアティブ」(2008年からの10年間でサブサハラアフリカの米生産を倍増) が推進されます。